

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

# 東京教師養成塾通信

発行日 平成30年9月8日  
<第5号>  
発行元 東京都教職員研修センター  
研修部教育開発課  
電話 03-5802-0318

## ●合宿「塾生同士が切磋琢磨し、実践的指導力の向上を図る。」

平成30年8月21日(火)・22日(水)に、国立オリンピック記念青少年総合センターで1泊2日の合宿を行いました。

開講式では、東京都教職員研修センター 大和 義行 研修部長が、『東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標』に示されている学習指導力の内容を踏まえ、授業実践研究に向けた指導案検討を行うこと「教育者としての自覚と責任といった観点で、これまでの自分を振り返り、新たな目標をもつこと」等、合宿に臨む塾生に期待する言葉を述べました。また、塾生代表の言葉として、中田 菜月 塾生が、「合宿での学びが伸長期以降の学びにつながるように取り組んでいきます。」と合宿への意気込みを述べました。その後、15期生全員が、合宿の成功を願って、班長を中心に練習を重ねた「養成塾の歌」を歌いました。



－堀田課長の講話－

1日目の午前には、同センター堀田 直樹 教育開発課長が「教師に求められるもの～教育者としての自覚と責任～」をテーマに、「分かる授業」「楽しい授業」をつくるために必要な視点や、児童・生徒、保護者、同僚、地域の方々との信頼関係の構築の重要性についての講話を行いました。また、午後からは「野外を活用した活動」として、国立青少年教育振興機構から講師を招き、野外を活用した活動における意義や目的を指導していただき、実習を行いました。

2日目の午前中には、東京教師養成塾の齋藤 辰雄 教授、橋本 茂樹 教授、牛島 隆文 教授が、体育科における安全指導及び集団行動の意義を理解し、指導法を身に付けることをねらいとする講義を行いました。三つのグループに分かれて、「体づくり運動系」「表現運動系」に関する実技講座と「安全指導の意義と留意点」に関する講義を受講した塾生は、実技や講義に生き生きと取り組み、指導の意義への理解を深め、体育の楽しさを体感していました。



－班別協議の様子－

2日目の午後には、10月からの授業実践研究に向けて班別協議を行いました。学習指導要領や準備してきた資料を持ち寄って、より良い授業実践を目指して検討を重ねる機会としました。その後、東京教師養成塾を担当する野澤 一代 統括指導主事が「学校教育の使命と役割～公務員としての教員の責務～」をテーマに講義を行いました。塾生は、教育公務員として守るべき服務について、具体的な事例の検討を通して学びました。



－体づくり運動系の講座－



－安全指導の講座－

閉講式では、東京教師養成塾を担当する栗原 健 主任指導主事が、合宿の総評と今後の塾生の更なる成長を期待する言葉を述べました。最後に塾生代表の言葉として、永井 祐輔 塾生が、合宿で学んだことを振り返り、感謝の気持ちや今後の講座及び実習への意気込みを語りました。塾生は、同じ目標をもつ仲間と互いに切磋琢磨し合うことにより、自己の実践的指導力の向上につなげることのできる合宿となりました。



－表現運動系の講座－



－学校教育の使命と役割－

## ●第12回講座「東京都の教育課題」

平成30年8月29日(水)に、東京都の教育課題についての基本的な事項や意義を理解するとともに、実践に生かすことをねらいとして、第12回講座を行いました。本講座は、教職に就くことを志す大学生を対象に講座を公開し、関係大学の学生を中心に約60人の参加がありました。

東京教師養成塾を担当する栗原 健 主任指導主事から、東京都の教育課題と学校現場の状況、「東京都教育ビジョン(第3次・一部改訂)」や「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」における教育課題についての講義を行いました。また東京都教育委員会が作成した指導資料や教材活用についての講義では、「SOSの出し方に関する教育を推進するための指導資料」や「オリンピック・パラリンピック教育映像教材」を紹介し、塾生がその内容を知ることで、実際の指導にどのように生かしていけばよいのかを考える機会としました。塾生にとっては、様々な教育課題に対応していくことと、教育課題の解決に向けて明確な目的や学習目標をもち、具体的な指導方法を打ち出すことの必要性について深く考える機会となりました。



—教育課題についての講義—

### 【塾生の感想より】

- ・教育課題について理解啓発を行い、課題解決を目指すために、東京都では様々な施策があり、教員として期待されていることについて学ぶことができた。児童・生徒一人一人が予測困難な時代を生き抜き、未来の担い手となれるよう常に学び続け、課題解決を目指していきたい。

### 【連載シリーズ コラム⑧】

## ◆ 教材研究・教材解釈の意義 ◆

東京教師養成塾教授 岩田 訓

図1

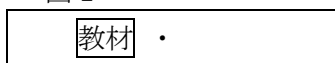


図2

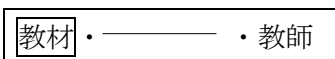


図3

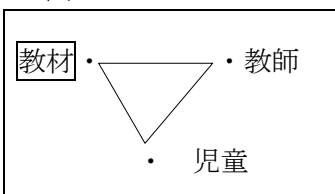
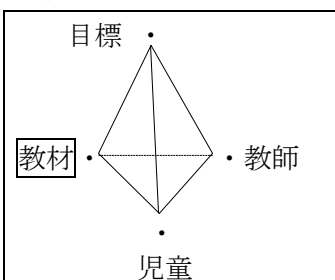


図4



教材は学習指導を行う上で重要な要素と言えます。そこで、左の四つの図を基に、「教材」について考えてみます。まず、図1は、「教材」そのものを点で表しています。他との関連は、全く示していません。

次に、図2では、「教材と教師」との関係を線で示しています。つまり、教師が教材をどのように分析するかを表しています。教師の見方・考え方によって教材は優れた学習媒体にもなれば、意味のない材料にもなりません。教師には、教材を正確に分析できる資質・能力が必要となります。

さて、その次に図3を見てください。児童という要素が入ってきました。児童がこの教材に興味・関心を示すか、教材との出会いが重要です。また、教師は児童の実態を踏まえたうえで教材を準備、加工しなければなりません。これらの構成要素は、「教材・教師・児童」となる三者の関係を平面として表すことができます。

最後に、図4を見てください。「目標」が入ってきました。目標とはその教科の目標であり、その単元の目標でもあります。あるいは、本時の目標と言ってもいいでしょう。こうした目標に向かって、この教材は適切であるか。児童はこの教材を活用して、目標に向かって主体的に学習することができるか。教師は児童の実態を踏まえ、この教材を用いることにより児童を目標に到達させることができるか。これらのことが十分に満たされることにより、教材としての価値が発揮されることとなります。

こうしてみると、目標を頂点として教材・教師・児童を底辺とした三角錐になっていることが分かります。このことが教材を解釈する上で、重要な構成要素になります。教師はそれぞれの構成要素を正確に捉え、立体的な思考を働かせて、教材研究をする必要があります。